

ほんばこ



愛媛県立今治西高等学校図書委員会 2024

夏の暑さも過ぎだんだんと涼しく過ごしやすくなって来る時期となってきました。運動会も終わり今年度も残すところあと半分となりました。忙しくすぎる日々の息抜きに読書で息抜きを試みてはいかがでしょうか。

10月(長月 ながつき 紅葉月 もみじづき 萩月 はぎつき)

※二十四節気※

白露 はくろ 8日 大気が冷えてきて露を結ぶ頃です。朝夕の涼しさがくつきりと際立ってきます。

秋分 しゅうぶん 23日 春分と同じく昼夜の長さが同じになる日です。これから次第に日が短くなり、秋が深まっていきます。

『カーテンコール!』 加納朋子 著 新潮文庫

閉校が決まった私立萌木女子学園。単位不足の生徒たちをなんとか卒業させるべく、半年間の特別補講合宿が始まった。そこに集まったのは、コミュ障、寝坊魔、腐女子...と個性豊かな”落ちこぼれ”たち。寝食を共にする寮生活の中で、彼女たちが抱えていたコンプレックスや、学業不振に陥った意外な原因が明らかになっていく。生きるのに不器用な女の子たちの成長を描いた連作短編集。

(2年生 女子)

10月27日は「文字・活字文化の日」

終戦まもない1947年(昭和22)年、まだ戦火の傷痕が至るところに残っているなかで「読書の力によって、平和な文化国家を作ろう」という決意のもと、出版社・取次会社・書店と公共図書館、そして新聞・放送のマスコミ機関も加わって、11月17日から、第1回『読書週間』が開催されました。そのときの反響はすばらしく、翌年の第2回からは期間も10月27日～11月9日(文化の日を中心にした2週間)と定められ、この運動は全国に広がっていきました。

そして『読書週間』は、日本の国民的行事として定着し、日本は世界有数の「本を読む国民の国」になりました。

今、電子メディアの発達によって、世界の情報伝達の流れは、大きく変容しようとしています。しかし、その使い手が人間であるかぎり、その本体の人間性を育て、かたちづくるのに、「本」が重要な役割を果たすことはかわりありません。

暮らしのスタイルに、人生設計のなかに、新しい感覚での「本とのつきあい方」をとりいれていきませんか。

『読書週間』が始まる10月27日が、「文字・活字文化の日」に制定されました。よりいっそうの盛りあがり、期待いたします。

(公益社団法人読書推進運動協議会「読書週間の歴史」より)

先生方のおすすめされる本をご紹介します！

今日は、理科の先生です！

書名『 妖怪アパートの幽雅な日常 』 著者名（ 香月 日輪 ）

私が皆さんに紹介する作品は、香月日輪さんの「妖怪アパートの幽雅な日常」という小説です。私が学生時代から愛読している作品で、私の人生を支える一冊です。

タイトルに妖怪とあるので、ホラー小説かと思う人もいるかもしれませんが、まったく怖くありません。この小説の主人公は、皆さんと同じ高校生です。事故で両親を亡くした主人公が高校に入学する際、入居予定だった寮が全焼してしまいます。失意に暮れる中、主人公は不思議な声に誘われて訪れた不動産屋から格安のアパートを紹介され、そこに住むことになります。なんとそのアパートは、霊能力者や小説家など癖の強い人間たちに混ざって妖怪・幽霊の類いが暮らす妖怪アパートでした。個性的な住人（住霊？）たちとかかわっていく中で、これまでの常識や「普通」の概念をことごとく壊され、少しずつ成長していく主人公の姿に元気をもらえる作品です。また、アパートで出されるご飯の描写がとてもおいしそうで、読んだ皆さんはこのアパートに住みたくなること間違いなしでしょう！

この作品の魅力は、人が生きていくうえで大切なことは何なのかを考えさせられるところだと思います。例えば、妖怪や幽霊のような人ならざる存在だからこそわかる人間の良さ、人にはそれぞれの生き方や過去があり考え方も違うこと、そしてそんな自分とは異なる価値観を持った人とかかわることの重要さなど、私がこの本から学んだことはたくさんあります。「君の人生は長く、世界は果てしなく広い。肩の力を抜いていこう。」これは、妖怪の存在に戸惑っていた主人公に対してある登場人物が言った言葉です。皆さんは、これからの人生で多くの問題にぶつかると思います。そんな時こそ、少し心の余裕をもって考えてみるのが大切なのではないのでしょうか。また、失敗を恐れず多くのことに挑戦してください。経験を通して学んだことは必ず皆さんの人生の糧になります。そして、ぜひとも妖怪アパートの幽雅な日常をのぞいてみてください。

御協力いただき、本当にありがとうございました。みなさんもぜひ読んでみてください！